

# Forest 通信

vol. 139

森林インストラクター東京会 会報

2023年12月16日発行

## 合格おめでとうございます！！

森林インストラクター2023年度(令和05年度)資格試験合格の皆さま、合格おめでとうございます。森林インストラクター東京会(FIT)は、現在登録会員337名(2023年11月30日現在)で、東京を中心に、25年以上にわたり幅広いフィールドで活躍しています。活動の詳しい内容については、FITホームページをご参照ください。東京都在住の新合格者は、以下の皆さまです。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

川村貴之 倉田光生 小高野土香 五島和歌子 近藤昭久  
齋藤均 境翔悟 坂井晋平 塩澤啓美 志村久寿  
関崎宜史 竹内芳仁 遠山はな 松山亜希 松井紀尚  
松本晃 間庭浩 水上和子 森和子 森栄  
山崎伊織 和田陽一 22名(敬称略・五十音順)



(この名簿はFITが入会説明会に使用することを限定に、(一社)全国森林レクリエーション協会より提供されたものです。)

## ★2024(令和6)年新年会 (新年観察会・新年懇親会)のご案内

1年間の研鑽の成果を発表する場です 会員の皆さま 奮ってご参加下さい

1. 開催日 2024(令和6)年1月13日(土)
2. 新年観察会(会場 国営昭和記念公園) 13時00分～15時15分  
集合・受付場所: 12時30分～13時00分  
「水鳥の池」東側「眺めのテラス」 JR西立川駅下車
3. 新年懇親会: 16時00分～18時00分  
立川ベースボール(立川市2-31-15) JR立川駅北口徒歩10分
4. 会費6,000円(予定)

### 新合格者FIT入会説明会

- (1) 会場 花みどり文化センター講義室 a  
国営昭和記念公園公式ホームページ (showakinen-koen.jp)
- (2) 時間 9時30分～12時00分

## ★重要なお知らせ★

### 1. 新合格者の方に森林インストラクター東京会(FIT)入会のお誘い

今年合格された方は、是非森林インストラクター東京会(FIT)への入会をお勧めします。入会手続きは、合格者の皆様に郵送する入会説明会の資料をご参照ください。なお、入会のご意向の有無に拘らず、2024年1月13日(土)の新合格者入会説明会、新年観察会、新年懇親会への参加を歓迎します。FIT活動の理解や新しい仲間との面識など得るものも多いと思います。入会説明会・新年観察会・新年懇親会への出欠は、資料に同封されているハガキにてご回答ください。

### 2. 2024年度(令和6年度)年次総会開催について(ご予約ください)

●日時:2024年3月16日(土)12時30分～18時(受付12:00より)

・総会の前後に講演会、懇親会を予定しています。

●場所:後樂園「林友ビル」6F

### 3. 会費納入(2024年3月1日～2025年2月28日分)に際し、自動払込手續のお願い

ご存じの通り会費の納入は、原則としてゆうちょ銀行の自動払込を利用いただいています。事務量の削減のためにも、まだ手続きをされていない方は、差支えない限り自動払込にご協力いただきますようお願いいたします。申込用紙はホームページの(旧)会員のページ「その他文書」にあります「自動払込利用申込書」をダウンロードの上(もしくは事務局あて用紙請求)、1月25日までにお申し込みください。なお、従来とおりの振込みをされる方には2月初旬に振込口座をご連絡いたします。年会費は5,000円です。

### 4. 平成10年度、15年度、20年度、25年度および30年度の初回登録者の方へ、登録更新のお知らせ

平成31年1月1日付けで登録した森林インストラクターの登録期間が令和5年12月31日で終了となります。特に資格を平成30年に取得された方は本年末が5年に一回の最初の資格更新時期に当たります。すでに全国森林レクリエーション協会から連絡があったかと思いますが、この更新をしない場合、FITの会員資格も失う(会則第4条)こととなりますのでご注意ください。



### 友の会合格者

今年は友の会「資格取得支援講座」の受講者から**会員5名、一般受講者3名の合格者**ができました。「FIT友の会」の講師・スタッフの皆様方に御礼申し上げます。

年	受験者数
2003	1246
2011	559
2017	443
2018	383
2019	382
2020	277
2021	284
2022	280
2023	331

減る一方だった受験者数がようやく反発局面を迎え、今年は約50名増の331名となった。コロナ禍が落ち着いてきたこと、オンライン講習の導入で利便性が増したことなどが考えられる。更なる増加を期待したい。

一方、会員数は337名と1年前に較べ8名減少した。減少は発足以来初めてである。会員の高齢化による退会、受験者減少に伴う入会者の減少など考えられるが、今の状況が続けばそう急な会員数の変動にはつながらないのでは考える。今後の推移を見守りたい。

資料提供 (一社)日本森林インストラクター協会

# FIT新人が立ち上げメンバーに聞く！ 長く続くFITの活動の秘訣とは？

## 1) 親子観察会～宮入芳雄さん・藤田富二さん

2023(令和5)年11月12日、11月29日インタビュー  
立川、調布にて(清水・西出・立川)

1996(平成8)年に発足した森林インストラクター東京会(FIT)。『Forest通信Vol.8』によると、早くも1999(平成11)年4月24日(土)には、第1回高尾山親子ツアーが開催され、20名のお客様と12名の森林インストラクターが参加されているようです。クガヒルとミミズの対決に目を輝かせる子供たちの様子が生き生きと描かれています。そこから、24年を経て、今年歴史ある「親子観察会」の運営を担当させてもらっている新人が宮入芳雄さん・藤田富二さんにお話を伺いました。

### 立ち上げの経緯

■「親子観察会」は、どのような経緯で始まったのでしょうか？

宮入さんは、立ち上げにどのように関わられたのでしょうか？

(宮入)米澤邦昌氏さんや三沢啓人さんが「親子観察会」立ち上げの功労者ですけど、米澤さんは東北に引っ越しされ、三沢さんは電話したら対応しておいてと言われたので、僕が答えますね。1996(平成8)年に石井誠二さんが発起人となって「森林インストラクター・東京会」(FIT)が立ち上がりました。その後、三沢さんや岡田誓さん達がFITの知名度アッププロジェクトを精力的に展開してくださり、その一環で「親子観察会」が始まりました。立ち上げ時、企画してくれた人たちはご苦労も多かったと思いますが、僕は参加させてもらって毎回わくわくしていましたね。



2023(令和5)年11月12日  
甘党・辛党両方イケル口の  
宮入さん

■「親子観察会」で一番やりたかったことは何ですか？

(宮入)子どもたちに色々な体験してもらいたかったですね。自分たちでまずは森林インストラクターとしての実践をやってみなきゃいけない、という思いがありました。今だったら、班長さんをお願いできるけど、そういう人もいないわけだから、それぞれが得意なことを持ち寄って、子供たちと一緒に遊びながら進めていきました。最初の頃は、日影沢キャンプ場を中心に子供たちにゆっくり観察してもらうようなスタイルを取っていて、山頂までは登らないこともありました。参加費も500円でした。

### 個人的な思い出

■活動初期の、楽しかったこと、思い出に残っていることを聞かせていただけますか？

(宮入)一つは、虫トラップです。虫トラップは本当は一週間かけるのですが、国定

公園内なので、そのときの事務局長の林敬太さんと相談して3日間だけかけました。地面に4ヶ所、木の枝に1ヶ所にかけて、木の枝にぶら下げた豚の脂に寄ってくるアオオサムシなどのオサムシ類、黒砂糖を入れた焼酎に寄ってくる“呑兵衛”のコガネムシ類やモリチャバネゴキブリがかかりましたが、思ったほど成果が得られませんでした。

(宮入)もう一つ、雪の日に開催した親子観察会もありました。数年前に火事でなくなってしまったんですが、日影沢キャンプ場に二階建ての管理棟「ウッディハウス」(※編集部注1)があって、雨の日でも木の種を飛ばす遊びや紙芝居など屋内でのプログラムができたので、「中止」ということはなかったんですね。来れる方は、来てください、というスタンスで、ある時、ものすごい大雪の日に2組の親子がいらっしやって、やっと歩いて行って大変でした。コガラとアトリの混群が飛んでいて、子供たちは喜んでいましたけどね。



2023(令和5)年11月29日  
小笠原についてのお話は時間切れで伺えず、次回に持ち越し

(藤田)日影沢周辺で植物散策した後、まいぎり式火起こしや焼き芋をしたことがあって、すごく盛り上がり、よく覚えています。あとは、小菅智彦さんと2人で、親子2名をガイドしたことがあったんですが、反応が薄くて、「どうする?」なんて困ったこともありましたね。

※編集部注1:「ウッディハウス」は、2012(平成24)年4月に事故により焼失した。

## ■「親子観察会」をご自分のFITの活動の中でどのように位置づけていましたか? どのくらいの年数や時間を割いて活動されていたのですか?

(宮入)「親子観察会」で活動していたのは、1-2年ですかね。FITより前の1990年代初頭から携わっていた「桜が丘公園雑木林ボランティア」としての里山(雑木林・谷戸田)の保全管理の活動が忙しかったので。この雑木林ボランティアはもう25年やっています。

(藤田)「親子観察会」に限りませんが、仕事では高尾森林ふれあい推進センター(以降、センター、※編集部注2)の職員として、プライベートではFITのメンバーとして、色々勉強しましたね。植物はもちろん、野鳥観察、ネイチャーゲーム、草木染、ツルカゴ作り、写真など、八王子図書館で関連書籍を読みつくしたり、外部の講師の方をお願いして来ていただいたりしました。

※編集部注2:1990(平成2)年に「高尾森林センター」が高尾駅北口に発足した。1都6県の国有林を管理する東京営林局の傘下に置かれ、当初は、営林署とふれあい推進事業の2つの機能を兼ねていた。現在は、ふれあい推進事業のみ行う。ふれあい推進事業は、国民に森林を理解してもらうための様々なイベントやサービスを提供し、現在は全国8ヶ所に森林ふれあい推進センターがある。2007(平成19)年に、現在の場所に建物が竣工された。藤田さんは、発足2年後の1992(平成4)年から4年、2003(平成15)年に森林インストラクターの資格を取得後に6年、2013(平成25)年から現在まで、3回にわたって「高尾森林ふれあい推進センター」に勤務されて現在に至っている。

## 活動の運営

■「親子観察会」の運営スタイルは時を経て変わってきましたか？変わったこと・変わっていないこと両方を教えてください。

(宮入)「親子観察会」は、最初やりたい人が参加していましたが、徐々に新人の登竜門となりました。当時の事務局長だった岡田さんが主導して、資格を活かすことができるよう新人育成のシステムを作られました。合格年のメンバーでグループを作り、3年間、「親子観察会」、企画、広報を体験することにより、森林インストラクターとして活動できる基礎知識を身につけられるというシステムですね。



(藤田)「親子観察会」といくつかのイベントが、2007(平成19)年にふれあい推進事業の一つとなりました。私は、センターの担当者としてFITに委託契約を頼みに行く立場で緊張しましたよ。当時の石井誠二会長の後押しもあり、なんとか引き受けてもらうことになりました。その後、「協定イベント」と名前が変わりました。事業実施数は増えてきました。当初の参加費用は、「親子観察会」は500円、それ以外のイベントは1700円でした。

2023(令和5)年10月22日  
秋の親子観察会

今後に向けて

■もしも今、ご自分が、一からなんの制約もなく、「親子観察会」を開催するとしたら、どんな場所、どんなコースで実施してみたいですか？

(藤田)火起こしを取り入れてやってみたいですね。日影沢にある炭焼小屋で炭焼きも一緒にやれたらいいですよ。つい最近も八王子市第三小学校で140名の小学5年生に座学の森林学習、丸太切り、火起こしを体験してもらいました。ひも切り式火起こしで、9割の子供たちが火を起こせましたよ。



2023(令和5)年10月22日  
秋の親子観察会

■「親子観察会」がこんなに長く続いた秘訣は何だと思いますか？

(宮入)FITのメンバーにとって学びの場、発表の場として、毎回わくわくしていたこと。そして、やっぱり新人が毎年毎年新しい気持ちで取り組んでることじゃないですかね。

(藤田)「親子観察会」や他のイベントを、ふれあい推進事業の一部として運営していることで、林野庁の下部組織である高尾森林ふれあい推進センターが実施しているという対外的信用度が得られたり、森林インストラクターの資格を持った人の活躍の場ができるメリットはありますよね。

■今後、「親子観察会」を運営するにあたって、アドバイスはありますか？

(藤田)FITのメンバーにおすすめしたいのは、センターで作れる「木(きい)ホルダー」。樹木の説明をしても外観からしか分からないから、「こんな材なんですよ」と説明できて面白いと思いますよ。フサザクラの材には日本刀の波紋みたいな文様が出たり、クワの材はお猪口に使われているけど本当にきれいだったり、カツラやカヤなんかもあります。クラフト体験室に来てくれれば森林インストラクターとしての引き出しも多くなりますからぜひお越しください。

## 『Forest通信』に見る第1回～第10回の親子観察会

回数	実施日	概要
第1回	1999/4/14	参加者20名、FIT12名 1号路～ケーブルで下り～東京都高尾自然博物館で昼食・見学
第2回	1999/8/8	参加者42名、FIT人数不明 日影沢～いろはの森～4号路 昆虫トラップ
第3回	1999/11/13	参加者21名、FIT13名 日影沢～一丁平～高尾山頂～1号路
第4回	2000/2/26	参加者26名 6号路～山頂～1号路
第5回	2000/4/22	参加者42名、FIT16名 いろはの森 「五感で味わう森の息吹」
第6回	2000/6/10	参加者36名、FIT16名 親子ではなく、大人のみ募集。稲荷山。
第7回	2000/8/5	2日間で76名、FIT人数不明
第8回	2000/8/26	日影沢周辺で植物観察や木の実づくり、昆虫トラップ
第9回	2000/11/25	参加者46名、FIT11名 午前中は日影沢キャンプ場で「形さがしハイク」、竹トンボ大会 いろはの森～4号路～山頂～慰霊塔広場
第10回	2001/1/27	参加者7名、FIT19名 雪の日影沢で植物や野鳥の観察、ウッドイーハウスで森の遊びやゲーム

### 〈編集後記〉

・今から24年前、子ども達を喜ばせようと仕掛けた虫トラップで、「思うように成果が得られなかったんだよお」とまるで昨日のここのように残念がる宮入さん。子ども達に火起こしを体験してほしいと熱く語る藤田さん。子ども達に森を楽しんでほしい、森の楽しさを伝えたいというFITのメンバーの設立初期からの強い思いが、今も引き継がれています。(西出記)



イラスト:鈴木歩

・初夏と秋の2回を経験した親子自然観察会。運営面では、準備の仕方や想定コースタイム作り、先輩班長達との一体感作りなど成果を得ることができました。でも、小学校低学年の子どもの声(アンケート)は、「また参加したい」が多くないのです。もりもり会内部からも「登山偏重になっていたかも」という反省の声が出ました。先輩たちの形をなぞるのに精一杯で、参加者目線が不足していたかもしれません。お二人の先輩が一緒になって楽しんでいた姿にふれて、改めて考えさせられました。(立川記)

## 2) 多摩の森・大自然塾 鳩ノ巣フィールド ～田島弘志さん

2023年11月22日インタビュー  
花小金井駅北口にて(西出・立川)

FITの森林塾(鳩ノ巣フィールド)は、自主作業(毎月第2日曜日)、森づくり・技術講座全5回(第3土曜日)、「多摩の森・大自然塾」(毎月第3日曜日・三者で運営)の3種類を行っています。ことの始まりは、2002年「多摩の森・大自然塾 鳩ノ巣フィールド」への参加でした。そして、FITの森林整備は、今や鳩ノ巣フィールドだけではなく、パウロの森くらぶ、お日の森くらぶの3か所に広がっており、森林施業に加えて草木染め、木工、昆虫・植物観察会など内容も広がりました。今回、「多摩の森・大自然塾 鳩ノ巣フィールド」創設時のメンバーで、自ら鳩ノ巣に通った田島弘志さんに、「大自然塾」に焦点を当てて話を聞くことができました。



田島師匠と「鳩ノ巣フィールド」を頼むよ!と檄を飛ばされた立川

### 立ち上げの経緯

■「多摩の森・大自然塾 鳩ノ巣フィールド」を始めたきっかけを教えてください。いつ頃、どのような経緯で始まったのでしょうか？田島さんは、立ち上げにどのように関わられたのでしょうか？

「大自然塾」の構想は、2002(平成14)年、東京都が西多摩の荒廃したスギ、ヒノキの人工林整備を計画し、NPO法人森づくりフォーラム(以下、森づくりフォーラム)がその事業を受託。森づくりフォーラムが森林ボランティア各団体に呼びかけを行いました。FITにも声がかかり、常駐の事務局実働部隊の認定特定非営利活動法人J UON NETWORK(樹恩ネットワーク)(以下、樹恩)とともに、FITがそれに応える形で始まりました。

松井一郎さん、岡田誓さん、関谷重彦さん、私が活動していたのですが4人組と呼ばれていました。松井さんによると、どうやら私が、最初に『『森林』インストラクターなのだから、この呼びかけに応えないのはおかしい！応えようじゃないか！』と事業部会かなんかで言ったらしいんですね。後から、「田島さんが言ったんだから」と松井さんにずいぶん発破をかけられました(笑)。

森づくりフォーラム、樹恩、FITの3者が協力して、2002(平成14)年秋から「市民が主体の100年の森づくり」を行う「多摩の森・大自然塾 鳩ノ巣フィールド」が東京都主催事業(※編集部注1)としてスタートしました。

※編集部注1:東京都は当初から主催について、時限を決めており、2008年4月に主催は東京都から森づくりフォーラムに代わった。東京都は引き続き後援として関与している。

鳩ノ巣に決まった経緯は、檜原村南郷地区など2～3か所の色々なフィールドを見学しに行って、駅から近くて電車でも通えたこと。山主の方は、森づくりフォーラムが契

約し、毎年森林計画を渡しているそうです。

### 個人的な思い出

■活動初期の、楽しかったこと、思い出に残っていることを聞かせていただけますか？

月1回、FIT内の自主作業があり、月1回、「大自然塾」があるというスタイルは今と同じです。それに加えて、森づくりの現場作業を習ったり、大規模に植樹する時には連日準備に行きました。FITは班長を引き受けるとなると、事前に研修が必要で、定例作業の他に、多い時は月に5-6回は通いました。

また、地元の方とも交流を深め、こんにやくづくり、わさび田づくり、地元のお祭りへの参加など、不定期のイベントも色々開催していました。

最初のころは、4人組は、いつも青梅駅に集合し、関谷さんの車で鳩ノ巣フィールドまで30分かけて通っていました。新島林業塾(※編集部注2)で新島敏行先生の弟子だった関谷さんから色々教わりながらね。また、樹恩の中嶋敏男さん(※編集部注3)は、森づくりについて詳しく教えてくれました。情熱家の中嶋さんに教えてもらったことが、今、FITの財産になっていると思います。

2008(平成20)年から2015(平成27)年にかけては、新島敏行先生にも、プロの現場に連れていってもらい、民家の庭のケヤキの大木を伐採するといった規格外の仕事も指導していただきました。吊り上げたり、難しいんですね。

#### ※編集部注2:「新島林業塾」

奥多摩町で1996(平成8)年から新島敏行先生が主宰された森林ボランティアの指導者を養成する塾。著書に『プロが教える森の技・山の作法』がある。

参考URL)「森の技・山の作法」現地研修の記録

<http://www.forest-tokyo.org/forest/sinrinjyuku/entry.html>

#### ※編集部注3:「樹恩の中嶋敏男さん」

樹恩が行っていた「森林ボランティア青年リーダー養成講座in東京」の第1期から第20期まで技術指導者を務めた。同講座の修了生で構成する「東京ヤングジュオン」の「師匠」でもあった。なお、樹恩では「里山・森林ボランティア入門講座in東京」と改称し、現在第25期を運営中。・・・「JUONのあの人 第10回中嶋敏男さん(JUON NETWORK 2011年第80号)」、ならびに「JUON NETWORKホームページ」より。



2003(平成15)年3月29日  
第1回植樹祭 80名もの森林ボランティアが集まり、完全伐採の森に広葉樹と針葉樹を植樹



2004(平成12)年3月28日  
第2回植樹祭





鹿ネット用のくい打ち

■活動初期の、ご苦労されたことを聞かせていただけますか？それらを、どのように乗り越えられましたか？

とにかく楽しかった。自分たちも新しいことを習いながら、「走りながら考えよう」を合言葉にしていました。「大自然塾」には、50-60名の森林ボランティアが集まり、FITのメンバーも樹恩と共に班長を務めていたので、班長も養成しなければいけなかった。

FITにも森づくりについて習いたい人がたくさんいて、女性でも班長として活躍した方がたくさんいましたよ。鳩ノ巣フィールドが、FITの森づくりを学ぶ唯一の場だったから、ここで学んで、「パウロの森くらぶ」や「お日の森くらぶ」などで活躍されている方もたくさんいらっしゃいますね。

■「多摩の森・大自然塾 鳩ノ巣フィールド」をご自分のFITの活動の中でどのように位置づけていましたか？どのくらいの年数や時間を割いて活動されていたのですか？

2002(平成14)年から2013(平成25)年までの10年間、圧倒的にこの活動を一番に位置づけていました。自主作業も、体調が悪かった数回を除いて、99%は通っていたんじゃないかな。80人余りが参加した2003年の初植樹祭、2004年の植樹祭では、準備のため直前には何日も通いました。

#### 活動の運営

■「多摩の森・大自然塾 鳩ノ巣フィールド」を継続するにあたって特に工夫されたことはどんな点ですか？森づくりフォーラム、樹恩ネットとの協力関係で、良かった点・ご苦労された点など教えてください。

樹恩は全国の大学生協を母体とした大きな組織で、常駐の事務局長がいて、学生ボランティアが手伝っていました。月1回、大学生協杉並会館に樹恩・森づくりフォーラム・FITの3者が集まり運営会議を実施し、企画立案は3者で行い、イベントの班長はFITと樹恩、事務局は樹恩という役割分担でうまく回っていましたね。樹恩はしっかりした組織で人材もいます。連絡協議会にはぜひ参加するといいですよ。

■FITのメンバーをどのように巻き込んでいきましたか？

とにかく鳩ノ巣フィールドの情報を発信し続けました。



その前に、1999(平成11)年、私がFITの新人だったとき、伐倒受け口の切り方を熱血指導中 Forest通信は、広報部員一人で担当しているような状況でした。1-2年目の会員数名で「勝手連」なんて言いながら、2000(平成12)年7月のVol.10から編集を担当するようになりました。「(旧)会員のページ」にアップされているvol.10に、その時の経緯を書いていますよ。

「大自然塾」が始まってからは、山のさまざまな作業のこと、植生や地元の皆さんとの交流、研修会などの様子なんかをMLやHPにもばんばん紹介(※編集部注4)していましたね。

※編集部注4: 参考URL) 活動報告 <http://www.forest-tokyo.org/forest/hatonosu/katudo.htm>



地拵えの残材整理中

### 今後に向けて

■今後、「多摩の森・大自然塾 鳩ノ巣フィールド」を持続可能なものにしていくためには、何が必要だとお考えですか？後輩へのアドバイスをお願いできますか？

楽しんでやればいい！もちろん安全は厳密に守りながらですが。50年以上の木の一生からしたら、自分が関われる時間は一瞬に過ぎないのだから、とにかく楽しんでほしいと思います。自分は、家庭の事情で通えなくなってしまいましたが、本当に楽しかったし、語れることは山ほどあります。

そして、面白いと思う情報はどんどん発信していったらいいのではないかと思いますよ。ただ参加するだけでなく、企画運営していく核になるスタッフに自らなったり、育てたりして、これからも盛り上げて行ってほしいです。



イラスト: 鈴木歩

### 〈編集後記〉

・今年、森づくり・技術講座でお世話になった鳩ノ巣フィールド。田島さんに、20年以上前の皆伐後の斜面が広がる写真を見せていただき、ショックを受けました。今では、FITの先輩や森林ボランティアの方々によって丁寧の手入れされた針葉樹や広葉樹が覆い、心地よい風がわたっています。今の自分に、20年後の森を想像できるか、それを創るために何ができるか問われている気がしました。(西出記)

・細い身体に情熱がいっぱい詰まっている田島さんに刺激を受けました。「『森林』インストラクターなのだから、森林を守り育てなくちゃ」という覚悟に共鳴しました。先日、「大自然塾」に初めて参加しましたが、学生さんや一般の方たちと一緒に作業して、それぞれの方にそれぞれの思いがあるように感じました。私は来年全参加を目指すことを目標とします。ささやかな覚悟です。(立川記)

### 3) 高尾山 Green Clean 作戦 ～ 津田勝さん

2023(令和5)年11月24日インタビュー  
新宿御苑にて(西出・立川)



2023(令和5)年11月24日  
新宿御苑近くの穴場の魚定食のお店「安芸」を教えてくださいました。

2023(令和5)年11月4日になんと150回を迎えた「高尾山 Green Clean 作戦」。もう何年も通ってくださっているお客様とFITから参加してくださる皆さんに支えられて、毎月一度、和気あいあいとした雰囲気で開催されています。最近では、自然を守るボランティア活動を探していて見つけました！と参加する若い世代のお客様も増えてきた中、国連でSDGsが採択されたのは2015(平成27)年より4年も前に「高尾山 Green Clean 作戦」を立ち上げた津田勝さんにお話を伺いました。

#### 立ち上げの経緯

■「高尾山 Green Clean 作戦」は、どのような経緯で始まったのでしょうか？津田さんは、立ち上げにどのように関わられたのでしょうか？

2010(平成22)年頃、長岡俊夫さんがFITのメンバーから有志をつのって高尾山のゴミ拾いを始め、私も参加していました。「FITの中だけではもったいない。一般のボランティアを募って、もっと大々的にやったらいいのでは？」と企画し、2011(平成23)年4月2日に第1回目を実施しました。その頃、「パウロの森くらぶ」の総括幹事をやっていたので(後述)、長岡さんと幹事交代しました。最初は口コミで人を集め、FacebookやTwitter、趣味人などのSNSも併用して発信した効果により参加者が漸次増加しました。

■「高尾山 Green Clean 作戦」で一番やりたかったことは何ですか？

一般参加者と一緒にゴミ拾いのボランティア活動を通じて社会貢献をすることを何よりやりたかった。観察会では一般参加者に対してどうしてもFITスタッフの上からの目線になりがちなので、お互いボランティアという対等な立場で協同していくことを表す魅力的なキャッチコピーが必要だなと考えて、ゴミ、清掃といった格好悪い用語を使わないよう、「高尾山 Green Clean 作戦」と名付けました。

また、自然豊富な高尾山の四季を知り尽くすこと。7コースを選定して、毎月違うコースを歩けるようにしました。7コース x 12ヶ月 = 84通りを歩くには、皆勤賞でも、7年かかるわけです。

#### 個人的な思い出

■活動初期の、思い出に残っていることを聞かせていただけますか？

当時はとにかくゴミが多くて、我々の活動によりゴミが目に見えて減少したことです

ね。登りも下りもゴミを拾っていました。登山客にゴミを持ち帰る習慣も根付いていなかったもので、ゴミを拾っていると、見知らぬ登山客から「ゴミ持って行って。」なんて言われたものです。今の高尾山はきれいになりましたね。

他には、リピーターさんも多くて、FITのメンバーに刺激を受けた参加者の中から森林インストラクター資格の受験者も増えて、そういう意味でもFITに貢献できたんじゃないかな。後に「高尾山Green Clean作戦」の統括幹事を勤めた稲葉力さんや槇田幹夫さんもそうでしたね。

印象に残っている思い出として、留学している中国人の大学生とその友達が8名で参加したことがありました。事前に先生経由で注意は伝えていたのですが、当日は何も持ってこなくてね。食べ物と飲み物をすぐを買ってもらって、中国語ができた小田野紀芳さん達がサポートして、案内しました。

### ■FITの活動にどのくらいの年数や時間を割いて活動されていたのですか？

合格したのは2003(平成15)年。「いちご会」で、(今回「親子観察会」のインタビューに応じてくれた)藤田富二さんも同期です。2004(平成16)年から最初の3年間は、周りにすごい方ばかりいたので、追いつこうと「親子観察会」も「鳩ノ巣自主活動」も皆勤賞で参加しました。4年目ぐらいで少しだけ自信と余裕が出てきたかな。「高尾山Green Clean作戦」も下見を1回だけじゃなくて、2回やったり、どのイベントでも安全のために下見は重視していました。

ちょうど1年目にパウロ学園の新任の校長先生から当時の事務局長の岡田誓さんに協力依頼が来たタイミングで、1年目なのに統括幹事に手を挙げました。高校野球の監督をやっていたから高校生には慣れていていると言ってね。そこで7年間、2010(平成22)年まで総括幹事を務めました。他にも、田園調布学園の講師派遣のプログラムの立ち上げにも手を挙げたり、企業と連携したイベントなどもやっていました。

### 活動の運営

#### ■「高尾山Green Clean作戦」を継続するにあたって特に工夫されたことはどんな点ですか？

一般参加者にリピーターになってもらう工夫を色々行いました。スタンプを押すパスポートを発行したり、ネイチャークラフト(※編集部注1)を渡したり、10回参加するごとに名札のリボンの色を変えたりしました。参加者どうしで、名札のリボンの色自慢もあったりしましたよ。また、一般参加者の活動ぶりの写真を撮影して、個別に送ってあげるなんてこともしていましたね。振り返りも、一般参加者も一緒に高尾山口駅前にあった「稲毛屋」(現在は閉店)でやっていました。議論が白熱したこともありましたが、明るくやっていましたね。

※ 編集部注1:初期は松原軌也さん、現在は槇田幹夫さんが制作。



2021(令和3)年11月6日  
第126回、日影沢～いろはの森コース

#### ■FITのメンバーをどのように巻き込んでいきましたか？

FIT MLに案内を送っただけですが、当初から多くのメンバーが参加してくれました。長く続けるために、中心となる統括幹事はどんどん変わった方がいいと考えていたので、僕も3年やって八木美雄さんに引継ぎました。

■「高尾山 Green Clean作戦」の運営スタイルは時を経て変わってきましたか？変わったこと・変わっていないこと両方を教えてください。

最初の頃は、班分けをせず一団となって、FITメンバーが自由に参加者と交流しながら、ゴミ拾いをするスタイルでした。A4の1ページにその日の観察ポイントを簡潔に5つぐらいリストアップして、解説を詰め込み過ぎないようにしていました。参加費は、保険代として100円のみで、FITメンバーには資料も配布していませんでした。

自分が総括幹事を引き継いだ後、途中から、安全のために班分けし、自然観察を重視するようになりました。引率するFIT班長の上から目線になりがちなので、一般ボランティア参加者の対等な仲間意識が希薄にならないか気がかかりますね。



2023(令和5)年11月4日  
第150回、小仏～城山コース

### 今後に向けて

■「高尾山 Green Clean作戦」がこんなに長く続いた秘訣は何だと思えますか？

高尾山の四季を通じた豊かな自然の魅力が大きいですね。そして、FITのメンバーの熱意が、長く続いた秘訣だと思います。

■今後、「高尾山 Green Clean作戦」を持続可能なものにしていくためには、何が重要だとお考えですか？後輩への期待について、苦言も含めて、一言いただけますか？

社会貢献のスピリットを持って、FITのメンバーだけで固まらないで、一般参加者と“一心同体”にやっていく姿勢が大事なんじゃないかと思えます。運営としては、ネットやSNSは積極的に活用した方がよいのではないかと思います。

### 〈編集後記〉

・FITに入会して1年目から、パウロ学園の案件にも、田園調布学園の案件にも、「主幹事をやりたい！」と手を挙げて、やり遂げた津田さん。学生時代には、夏は高校野球の監督、冬は蔵王にこもってスキー&麻雀合宿。そこから、FITでのやんちゃっぷりに直結している人生が素敵だなと思いました。大変だったことは「あんまりなかったなあ」「落ち込んではいられなかったよ」と笑っている姿、これぞ長く続くFITの活動を切り開いた秘訣だと感じました。(西出)

・なんて立ち姿が格好いい方だろうと、待ち合わせ場所の新宿御苑の入口で感じました。「社会貢献」を柱に、一貫してアクティブ、ポジティブな姿勢でボランティアしてきた津田さん。今度はスキーを教えてください。(立川記)



イラスト:鈴木歩

<事務局便り>

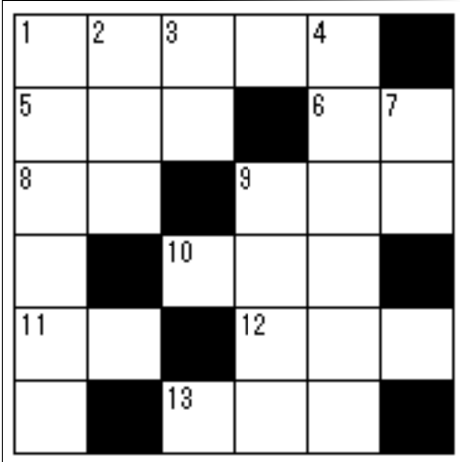
今年も早いもので師走を迎え、残り日数も少なくなってきました。寒い日が続きますが、体調管理には十分に気を付けて、日々の活動にご活躍ください。

今年の合格者も発表され、FITに新たな仲間を迎える季節となりました。新合格者への説明会、入会手続き、新年観察会に引き続き総会開催と行事が目白押しです。会員の皆様にもさまざまな場面でご協力をお願いすることになりますが、よろしくお願いいたします。

● 会員情報

会員数(2023年 11月30日現在)337名

FITクロスワードパズル



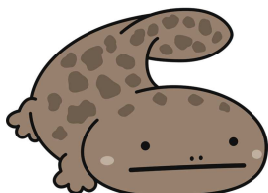
タテのカギ

- 1 富士山では今年は10月5日でした
- 2 秋葉原駅発〇〇エクスプレス
- 3 皇居のお堀にも生えている浮葉植物
- 4 山形県にある修験道の山々
- 7 授業中は禁止です
- 9 コロナ規制が〇〇されて高尾山が混んでいる

ヨコのカギ

- 1 これを見に山に登る人が多い
- 5 早春の風物詩 シダの一種
- 6 コウゾ、ミツマタ、埼玉県比企郡小川町
- 8 ウダイカンバは一般にこう呼ばれています
- 9 このから揚げは今では高級料理
- 10 雪の上の動物の足跡はフィールド〇〇と呼ばれます
- 11 春の七草の1つ
- 12 好きな人は作っている所に必ず寄る
- 13 千葉県では周辺人口より多い地域がある

解答



ク	エ	キ	ク	ク	ク
ク	ク	ク	ク	ク	ク
ク	ク	ク	ク	ク	ク
ク	ク	ク	ク	ク	ク
ク	ク	ク	ク	ク	ク

知 っ 得 情 報

光合成をやめた植物3種の種子の運び手をカマドウマと特定 —風も鳥も哺乳類も手助けしない植物の種まき方法—

[https://www.kobe-u.ac.jp/research\\_at\\_kobe/NEWS/news/2017\\_11\\_13\\_01.html](https://www.kobe-u.ac.jp/research_at_kobe/NEWS/news/2017_11_13_01.html)

猛毒のシキミ種子を運ぶ動物がいた

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/research/saizensen/2018/20180302-02.html>

オオサンショウウオの交雑種、ついに… 「在来種が絶滅する危惧」

<https://www.asahi.com/articles/ASQ7G66YMQ71PITB004.html>

飛べない昆虫「ナナフシ」の長距離分散の痕跡を遺伝解析で発見 ～鳥の摂食による移動は頻繁に起こっていた!?～

[https://www.kobe-u.ac.jp/research\\_at\\_kobe/NEWS/news/2023\\_10\\_11\\_01.html](https://www.kobe-u.ac.jp/research_at_kobe/NEWS/news/2023_10_11_01.html)

クマガラ 白神山地で9年間姿見えず

<https://www.toonippo.co.jp/articles/-/1683289>

フォレスト通信Vol.139

発行者 森林インストラクター東京会  
 編集 広報部会 清水好博 西出幸子  
 取材協力 立川洋一  
 イラスト 鈴木 歩

事務局長 藤岡 眞

所在地 〒260-0031多摩市豊ヶ丘1-58-1-202

メールアドレス: sfujioka0206@yahoo.co.jp